

「心に木を植える」

タイ マイチャルーン村の森づくり



今年、タイ北部に位置するチェンライ県チェンコン郡で、水源林の森を再生させる新たな挑戦が始まりました。

同地では、山岳民族による森林の再生能力を超える焼畑利用などにより、木々が消失。一面はげ山となったことで、麓のマイチャルーン村に届く水量が減り、農業を生業とする住民の生活に大きな影響が出ています。隣村出身のスタッフ、スティンさんと村の住民たちの思いによってスタートしたこの取り組みは、一步一步着実に前進しています。

(文・タイ駐在代表 春日智実)



「私はねえ、うれしいんですよ。本当にありがとうございます！ 頑張りますから！」 そう言って、ちよっと酔っぱらいながら私の手を固く握った、マイチャルーン村のスラポン・アノマ村長。その気持ちが、なんだかとてもうれしかったのです。

オイスカの森づくりや村づくりを知り、「自分たちもやりたい！」と声を上げた村がありました。その願いを受けて、「オイスカのプロジェクトとしてできないか」と訴えてきたスタッフがいました。それがマイチャルーン村とその隣にあるホイエン村出身のスティン君（10ページで紹介）です。

オイスカは、1975年にタイにおける農業技術指導を開始して以来、チェンライ県スリン県、アユタヤ県、ラノーン県を中心に、森づくりや村づくりに取り組んできました。

ただ活動資金はどこから……？ ホイエン村のプロ

Profile

春日 智実

(かすが・ともみ)

大学在学中、オイスカの「30日間植林ボランティア」へ参加したことをきっかけに、卒業後1995年にオイスカの国際協力ボランティアに参加。翌96年から、職員として本部、四国研修センターでの業務に従事。99年～2002年には、青年海外協力隊員として、スリランカで国際協力活動を体験。終了後オイスカに復職し、現在に至る。長野県出身。



昔ホームステイでお世話になったアカ族のお母さん(写真右)と



上／開会式は120人が参加。大勢で植えると、3千本もあつという間
下／作業の合間にみんなで食べるお昼ごはんは格別

ジエクトは日本の政府開発援助（ODA）を活用したものです。オイスカにはそんなお金はありません。1年間足踏みしていましたが、「24年はスタートしましょう！必ず集めてみせます！」と宣言し、ついに覚悟を決めました。そこから始まる努力の毎日。SNSで呼びかけたり、企業にお願いに回ったり。さらに、今年4月8日〜5月22日の期間で「森を守ることは、生活と文化を守ること。タイの森再生プロジェクト」クラウドファンディングにも挑戦。P

Rのための情報集めや、ライブ中継でのイベント企画など、村の住民たちと何度も顔を合わせて苦労をともにするうちに、徐々に互いの仲間意識も高まっていききました。そしてようやく活動が開始でき、冒頭の村長の言葉を受け取ったのです。これまでの活動地では、プロジェクトが成功してから「ありがとう」と言われてきました。でも今回は、やっとこさスタートしたばかり。本当の勝負はこれからと思いつつ、心がジーンとしました。

7月27日、まずは植林や地域開発の専門家チームが村に入り、住民とのワークショップを行いました。オイスカは「心に木を植える」をモットーにしています。これは、ただ木を植えるのではなく、自然の大切さを理解し、自分たちの森を誇りをもつて守り、育む人を育てるということ。ワークショップは、そのための種をまく作業です。「どんな森にしたいのか」「どんな活動にしたいのか」具体的なアイデアを共有する中で村の状況を知り、今後の方向性を探っていきます。こうした場を繰り返していき、住民たちの心をついにいくのです。そしていよいよ植林へ。植栽予定地に向かうと、雨が降ってドロドロになった場所で、住民たちが下草刈りをしていました。ずぶ濡れでも、泥だらけでも、彼らは笑顔を向けてくれます。ようやくプロジェクトを始められた喜びでイキイキしているのです。本当に良かったなあ。苦労した甲斐がありました。8月4日の開会式では、前田建設工業株式会社（賛助会員／「子供の森」計画支援者）の皆さんも

お越しくださり、3千本を植えました。現在、すでに今年度分の5・6haの植林は終了しました。今後は、住民との話し合いやワークショップを繰り返しながら、下草刈りや施肥、補植、山火事対策を進めていきます。資金がなく、見切り発車で始めたプロジェクトですが、たくさんの方々のご支援、ご協力に支えられ、とても良い形でスタートを切ることができました。村長の「ちよつと早すぎる「ありがとう！」が、本当の成果を出した後の「ありがとう！」につ

マイチャルーン村の森づくり 実施スケジュール

- 2024年 3月 ● 植栽地の調査
- 5月 ● 住民との会議、プロジェクトの周知、住民グループの結成、苗木の準備開始
- 7月 ● 植栽地の準備、整地作業、ワークショップ
- 8月 ● 植林開始、青少年への啓発活動
- 10月 ● 植栽地の下草刈り・補植・施肥などの管理作業 1回目
- 12月 ● ワークショップ
- 2025年 1月 ● 植栽地の下草刈り・補植・施肥などの管理作業 2回目
- 3月 ● 森林火災研修、防火帯作り、青少年への啓発活動

※全体で100haの緑化を目標に、まずは第一期5ヵ年計画（24-28年）で32haを植栽する予定です。

〈タイの活動のご支援はこちら！〉

春日駐在代表がNBS（長野放送）の番組に出演！

ご意見・ご質問欄にタイ支援とご記入ください



ワークショップでは、みんなの意見を紙にまとめて、グループごとに発表

ながるように、そしてその声を皆さんに届けられるように、私たちも引き続きサポートしていきます。